

2019.9.5 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

サイレント映画を語りと生演奏で体感
映像学部生プロデュース企画 活弁ライブ『メトロポリス』開催

日時：2019年9月21日（土）14:30～16:20

会場：京都みなみ会館 Theater1

映像学部は、8月に移転・再オープンしたばかりの京都みなみ会館で、活弁ライブ『メトロポリス』を、9月21日（土）に開催いたします。

近年、講談や浪曲など、日本の伝統的話芸に、幅広い層から注目が集まっています。こうした話芸の流れを汲んで、日本独自の発展を遂げたのがサイレント映画時代の活動弁士でした。今年12月に封切られる周防正行監督の最新作『カツベン！』は、大正時代を舞台に、当時、映画俳優以上の人気を誇った活動弁士の奮闘を描いたエンタテインメント活劇で、およそ100年経った現在、熱い視線が注がれています。

本企画では、SF映画の原点にして頂点とも評されるフリッツ・ラング監督の作品『メトロポリス』をサイレント上映します。活動弁士には、“ライブ・パフォーマンス”としての活弁の魅力を伝えるべく、全国各地で活弁上映会に取り組んでおられる佐々木亜希子さんをお招きします。伴奏はその佐々木さんと名コンビを組むピアニストの永田雅代さんが務めます。およそ90年前の日本公開当時と同じく、“ライブ・パフォーマンス”として、SF映画の金字塔である本作品を楽しんでいただきたいと考えています。

なお、本企画は、本学映像学部在籍する2回生以上が受講する「プロデュース実習Ⅰ」の授業の一環で、学生たちが映画を中心とした作品の上映企画を立案し、8月に再オープンしたばかりの京都みなみ会館で実践するものです。学生たちが主体となって上映作品の選定、ちらしの作成、広報活動、当日の会場運営（補助）など、全てを行っています。

記

日時：2019年9月21日（土）14:30～16:20

会場：京都みなみ会館 Theater1（定員121人）

（〒601-8424 京都市南区西九条川原城町110 TEL.075-661-3993）

入場料：一般2,000円／学生・会員1,500円（前売り・当日同額）

主催：立命館大学映像学部、京都みなみ会館

企画：学生企画グループ「サイレント・サウンド・ライブ上映委員会」（後藤優風、安田美咲、亀岡菜摘、岸谷京香、鈴木奈々、松崎優里香）

※ご取材いただける場合、下記までご連絡をお願いします。

以上

別紙

【タイムスケジュール】

14:30 開場

14:45 ご挨拶

『メトロポリス』上映(85分)

活動弁士:佐々木亜希子氏 伴奏:永田雅代氏

16:20 終了予定

【ゲストプロフィール】

佐々木亜希子:

活動弁士。NHK 山形放送でキャスターを務めた後、2001 年より活動弁士としての活動を開始。軽いタッチの作品からアニメ、時代劇、シリアスな内容までそのレパートリーは 200 作品以上。活弁技術を生かした“バリアフリー映画”で視覚障害者も健常者も楽しめる映画音声ガイドの製作も手掛ける。

永田雅代:

鍵盤弾き。幼少期からクラシック、JAZZ、POPS など多種のピアニストやキーボーディストに大きく影響を受ける。93 年には新宿ピットイン等で活動するピアノトリオを結成。北アフリカ、ヨーロッパを外遊後は上記の曲種の他に演歌、アイリッシュ、フォーク、民謡など様々なジャンルで活躍。無声映画のための音楽制作や生演奏にも力を入れている。

【上映作品紹介】

メトロポリス Metropolis

1927 年/UFA/監督:フリッツ・ラング/脚本:テア・フォン・ハルボウ、フリッツ・ラング/出演:アルフレート・アーベル、グスタフ・フレーリヒ、ブリギッテ・ヘルム、ルドルフ・クライン=ロッゲ、フリッツ・ラズプ、テオドア・ロース、エルヴィン・ビスヴァンガー、ハインリヒ・ゲオルゲ/85 分

※16mm フィルム(マツダ映画社提供)による上映になります。あらかじめご了承ください。

本作は、1927 年の約 100 年後の近未来である 2026 年を想像して描かれた作品です。その 100 年後が近づいた 2019 年の今でもこの作品が世界各国で愛される大きな理由のひとつは、メトロポリスの持つ“オーパーツ”とでも言うべき的確な未来予想の数々です。高層ビルばかりが立ち並ぶ街、その頂上で豪遊する数少ない貴族階級と地下で奴隷のように働かされる下層階級の人々、テレビが発明されたばかりの当時の発想とは思えないテレビ電話、そして人と同様に見えるほど精巧な人造人間。4 万人弱のエキストラを雇って製作された、この大作は、『スター・ウォーズ』や『ブレードランナー』など後の映画に只ならぬ影響を与えました。